

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	プログラミングクラブ
学年	小学校第6学年
目標	プログラミング的思考を意識すること プログラミングに興味を持つこと
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	ミニロボ PR-01
環境	児童2人で1台のミニロボ、タブレットを使用
都道府県	静岡県
実施校	掛川市立原田小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>プログラミングクラブ全6回実施(6/12 19 7/10 17 9/4 11)</p> <p>6/12: プログラミングとは?…日常生活と深く関わっているプログラミング</p> <p>6/19: ロボットプログラミング初歩…ソフト使用法レクチャー</p> <p>7/10: 障害物をよけてドリブル、シュート…コースが複雑なプログラミングに挑戦</p> <p>7/17: 前回の続き</p> <p>9/4 : 自由課題チャレンジ…来週の発表内容を自動自ら決定</p> <p>9/11: 成果発表会</p> <p>1回目詳細は以下のページをご覧ください。 https://www.minirobo-p.jp/case/35.html</p> <p>児童は全8名、2人1組全4グループで臨んだ。男の子は直感的に進め、女の子は丁寧に計画を立てながら進めていくという典型的な雰囲気だった。しかしながら児童同士の深い対話を目の当たりにすることができ、児童の姿から教わることも多々あった。最終日は「複雑なコースを通してドリブル、シュート」、「ループによる連続シュート」、「複雑な図形を描く」など各グループがこだわりを持って成果発表会に臨んだ。「充実した時間を過ごせた」、「今後もプログラミングにチャレンジしたい」という児童の感想文から、児童は大変有意義な時間を過ごすことができたと感じる。</p>
成果と課題	<p>プログラミングの基礎から丁寧に教えていただき、プログラミングクラブに所属する全員がプログラミングを好きになり、プログラミングに対して自信をもつことができた。与えられた課題に対して、どうやって“ミニロボ”を動かしたらよいか、どうプログラミングをしたらよいかを、トライアンドエラーを繰り返す中で解決することができた。「順次」や「分岐」、「反復」などを自然と身につけ、使うことができていた。プログラミングの知識はもちろん、「ロボがうまく動かない」という失敗から何を学ぶかが大切であることを教えていただき、普段の学校生活でも失敗したらすぐあきらめてしまうのではなく、次の行動を考えて取り組もうとする姿が見られるようになった。</p> <p>また、クラブ活動終了後にも来校していただき、高学年対象に講座を開いていただいた。その際にはプログラミングクラブの児童が他の児童に生き生きとプログラミングの仕方や解決方法を教える姿が見られ、学びの深まりが感じられた、他の児童もプログラミングに対する興味を広げることができていた。</p> <p>その興味の広がりを次年度以降どうつなげていくかが今後の課題である。</p>